

## 第16回「“フェアトレード”で世の中を変えられる??」

日時：11月7日(水) 午後7時～午後8時30分

会場：龍谷大学 大阪梅田キャンパス 研修室

講師：高津 玉枝

株式会社福市 (LOVE&SENSE) 代表取締役

URL <http://www.love-sense.jp/>

高津玉枝の最新フェアトレード情報

URL <http://ameblo.jp/tamaefukuichi/>



高津玉枝さんは、民間企業を経て、1991年にマーケティング会社を設立し、大型商業施設のアドバイザー、商品企画、新規事業の立案や販売戦略を手掛けてきました。その際、多くの商業施設が安価な商品を大量に販売する状況に違和感を持ち、2006年にフェアトレード商品を扱う株式会社福市 (LOVE&SENSE) を興します。一つの商品には、世界中の多種多様な文化や伝統だけではなく、経済格差、貧困、搾取といった困難を乗り越えるための知恵や工夫など、様々な物語が背景にあります。高津さんは、フェアトレードを通して、製作に関わった人たちに思いを馳せ、新しい買物への価値観を購買者に提案することを目指しています。

### 講座概要

講座では、フェアトレードの形態と途上国への企業の進出との違い、輸入コストをあえてかけてフェアトレードを行う意味、そしてフェアトレードラベルの課題について、御自身が事業を立ち上げる際に抱えていた疑問を提示しながら、高津さん自身が考える“フェアトレード”の概念や意義について説明いただきました。また、東日本大震災の被災者支援事業についてもお話いただきました。講座は、途上国での人々の暮らしや貧困の背景、フェアトレードに関わる人たち、被災者支援活動といった株式会社福市の取り組みなどを通して、私たちが漠然と持っていたフェアトレードに対する知識を深め、新しい国際協力や社会貢献の枠組みを提示するものでした。

### フェアトレードってなに？

フェアトレードが必要とされる要因は、途上国内の問題と国際的な背景があげられます。前者については、仲買人による生産者への不当な扱い、劣悪な労働環境、行政の腐敗といった要因であり、後者については、一時製品の不安定な価格、国際商品協定の崩壊、新自由貿易主義、そして援助の限界や失敗といわれています\*。高津さんは、こうした背景を理解しながらも、フェアトレードに対する疑問も同時に抱きます。例えば、フェアトレードという概念を用いなくても、途上国に産業を興すことで解決できるのではないかと、輸入コストをかけて遠隔地で販売する意味があるのだろうか、そして、フェアトレードラベルを付けることにお金と労力が求められる場合、弱者を救済するという本来の趣旨と異なるのではないかとといった点です。そうした疑問を解決するため、実際にインドのフェアトレード団体を訪問し、そこで日本では想像できない現地の苛酷な貧困の現状を視察しました。また、施しではなく正当な労働の対価として商品を販売したいという生産者の強い思いや、人として尊厳を持って仕事をしたいという生産者の意思を感じます。ネパールでは、地政学的に非常に不利な場所にあるため、効率を優先する現在の貿

易システムから完全に疎外された場所であることを目の当たりにし、そうした地域の生産者に新たな枠組を設定する必要を実感しました。さらに、ヨーロッパのフェアトレード認証団体を訪ね、認定ラベルやマークが、購買者にフェアトレードを周知して弱者が被っている問題へ関心を向ける有効な手段であることを確認し、課題があったとしても、現状では必要なシステムと考えるようになります。

### 日本のフェアトレード事情と事業としての成立させることの難しさ

2006年にフェアトレード事業に特化した株式会社福市を興します。当時のフェアトレード市場をみますと、認知度はわずか3パーセントにすぎず、主に現地で活動するNGO関係者のみが関心を寄せているといった状況でした。また、多くの商品については、東南アジアの土産物的な扱いにしかすぎません。こうした状況を打開するために、フェアトレードを周知し、購入できる環境を整えること、またフェアトレード商品の質を向上させ、一つの新しい価値観として提示することを目的として事業に取り掛かります。そのために、福市では、市場調査の実施をはじめ、マス・メディアや企業にも積極的に商品のアピールを行いました。また、集客力の高い百貨店の担当者や各種流通業界にも働きかけ、イベントスペースにおける商品の販売も継続して行いました。失敗も多く、事業として必ずしも成功してきたとはいえません。ここ数年、国内フェアトレード認証製品の市場は拡大しており、現在では、ようやく多く店舗でフェアトレード商品を見受けられるようになりました。

しかし、継続的な支援を行うには、フェアトレードを事業として成立させる必要があると考えています。フェアトレード認証製品の市場拡大を背景に、購買者の関心が高まっていることも事実ですが、安定した商品の供給を始め、事業継続に向けて多くの課題が山積しています。今後、オリジナルブランドの開発や世界各国のフェアトレード企業と提携を進めながら、デザインを含め高い質の商品を提供し、日常生活の中でフェアトレード商品が活用できる展開が求められます。こうしたことが、事業として成功する重要な鍵になるといえます。

### 東日本大震災被災者支援 EAST LOOP プロジェクト



福市は、フェアトレード事業と並行し、東日本大震災の被災者支援の一環として、EAST LOOP プロジェクトを2011年に始動しました。現在は、陸前高田市、釜石市、大槌町へ作り手が広がり、届けた収入は総額2,185万円(2012年10月末時点)になりました。また、経済産業省の『ソーシャルビジネス・ケースブック(震災復興版)』\*にも掲載されています。これは、自分のペースで参加できる手仕事を被災地に提供し、少しでも元気になってほしいという思いからスタートしたプロジェクトです。収入を得るだけでなく「前を向いて生活するため」の被災者の気持ちを大切に考えています。

フェアトレードという概念だけで貧困や被災地の問題が解決するわけではありませんが、フェアトレードやEAST LOOPプロジェクトに関心を持ってもらうことが、途上国の方々や、被災し困難な状況にある人々が抱える問題を知る第一歩になります。こうした商品の販売や購入を通じて世界や被災地

の問題に思いを馳せることの重要性については、受講者にとっても同じ思いであると考えています。

\*「ソーシャルビジネス・ケースブック(震災復興版)」<http://www.meti.go.jp/press/2011/01/20120113002/20120113002.html>

#### ♥ EAST LOOP に関する情報 ♥

URL : <http://www.east-loop.jp/> FaceBook : <http://www.facebook.com/EASTLOOP>

\* 11月14日 阪急デパート 梅田本店 10階 LOVE&SENSE の直営店が OPEN \*